

2017年5月12日 第3198回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 谷 会長

<斉 唱> 「君が代」「奉仕の理想」

<唱 和> 「四つのテスト」

<ゲスト紹介> *映画監督 矢城潤一様

*通訳 高橋栄子様

<誕生月祝> ・徳永良輔 (S. 9.5. 4) ・福島康人 (S. 18.5. 15)

・高橋仁子 (S. 14.5. 19) ・根岸文彦 (S. 22.5. 21)

・田邊一三 (S. 26.5. 23)

各会員

<入会月祝> ・高橋秀行 ・長尾和典 ・岩瀬厚 ・藤村昌一

・伊藤隆義 ・齋藤眞且 ・小林一博 ・長堀薫

・大竹孝憲 ・門井宏二郎 ・鈴木嘉明 ・新倉良是

各会員

<会長報告> *ガバナー事務所より

・地区「新会員の集い」のご案内について

5月20日(土) 17:00 開演 会場：藤沢商工会館「ミナパーク」会議室

出席：今野成敏、新倉良是、淡路なな恵、加藤淳、吉田啓司 各会員

・次年度会員増強・会員維持セミナー開催のご案内について

6月5日(月) 15:30~17:00 於：アイクロス湘南

・クラブ幹事/クラブ事務局研修のご案内について

6月3日(土) 13:30~16:20

於：第一相澤ビル2・8F「会議室」

<委員長報告> *雑誌委員会 瀬戸委員より ロータリーの友5月号

*出席委員会 澤田長より4月席報告 4月分平均出席率86.50%

	会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
4月14日	110名	70名	49名	21名	34名	97.20%
21日	109名	92名	63名	29名	9名	75.79%

*勝見副幹事より第8回米海軍第7艦隊バンド&横須賀交響楽団

フレンドシップコンサートのお知らせ

9月17日(日) 15:00開演 於：横須賀芸術劇場

*ローターアクト 第1026回例会のご案内

内 容：次年度年間予定について

日 時：5月23日(火) 点鐘 19:45 於：ヨコスカテラス

<幹事報告> *ガバナー月信 No. 11

*例会終了後第11回理事役員会開催(302研修室)

<出席報告> *出席委員会 澤田委員長より5月12日の出席率

会 員 数	出席対象者数	出 席 数	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
109名	84名	56名	29名	7名	74.12%

<ニコニコ報告>

・三 役 矢城監督、映画完成おめでとうございます。当横須賀RCも協賛しておりますので、完成を楽しみにしておりました。本日卓話宜しくお願いします。

・信木、松村、勝見、岡田、渡邊、ENORA、井荏、勝間、澤田、薦野、外崎、秋本、根岸、北村、齋藤眞、福西、前川、三堀 各会員

映画監督 矢城潤一様、「映画を巡る冒険」本日の上映楽しみにしています。

・岡田、山下、勝見、小林(-)、八木、前田、鈴木(働) 各会員

映画「スカプロ」応援券、宜しくお願い致します。ポスターも是非、お持ち帰り頂き
よろしくお祈りします。

・根岸 会員 誕生月祝いとして

・高橋(働)、岩瀬、藤村、齋藤眞、小林(-)、門井、鈴木(働)、新倉(働) 各会員 入会月祝いとして

・杉山 会員 誕生月祝い(2月)として

・石田、杉山 両会員 入会月(3月、4月)祝いとして

・三 役 ロータリーゴルフ部、雨が心配される中、無事開催できました。設営の皆様ありがとう
ございました。又、優勝、ニアピンの皆様、ニコニコありがとうございました。

・越川 会員 4月27日のゴルフコンペにて、幹事3名が上位入賞となりました。参加の皆様ありがとう
ございました。秋には、一泊ゴルフ会を予定しております。マリガンも!

・小林(-) 会員 先日のゴルフ会コンペで優勝しました。山・先生にいただいた優勝賞品の葉山牛のステ
ーキ、家族で美味しく食べました。ありがとうございました。

・山下、齋藤(働) 両会員 先日のゴルフコンペ、ニアピン取りました。幹事の指令でニコニコ入れさせ
ていただきます。

・4番テーブル井荏マスター、齋藤(働)サブマスター 5月8日あら井での4番テーブルミーティングに
は会長、幹事はじめ多くの方々にお集まりいただきありがとうございます。急な予約
にもかかわらず高橋会員、ご対応ありがとうございました。

・山・、鈴木(働)、瀬戸、兼城、池上 各会員 5月8日あら井にて4番テーブルミーティング
を行いました。井荏マスター、齋藤眞且サブマスターご苦労様でした。高橋仁子会員、
美味しいお食事ありがとうございました。

・中村 会員 4番テーブルミーティング、参加できずに申し訳ございません。

・加藤(働)、勝見、渡邊、小林(-)、岩瀬、上林 各会員

兼城会員、社長ご就任おめでとうございます。偉くなっても遊んでね!

・勝見、瀬戸、井荏、岩瀬、波島、齋藤(働) 各会員

三浦学苑サッカー部、県大会優勝おめでとう。関東大会頑張ってください。

・加藤(働) 会員 お久しぶりです。ゴールデンウィーク、いかがお過ごしでしたか。お天気に恵まれ良か
ったですね。

・猿丸 会員 今日も宜しくお願いします。

・齋藤眞、澤田、福西、北村 各会員 写真をいただいて

<卓 話>

「映画を巡る冒険」

矢城潤一 監督

矢城潤一と申します。今日はお招きいただき有り難うございます。映画ではスカジャンが重要なアイテ

ィムですので、今日はスカジャンを着てきました。カジュアル過ぎたかなと後悔しています、お許しください。

映画「スカブロ」は何とか完成しました。大概の地方発映画は、行政が関わったり、商工会議所が音頭を取って制作費を集めるのが普通です。今回は40代50代の中堅経営者が中心となって制作費の5千万を集めたことは画期的だと思います。それも活動拠点がこのロータリーだった事を考えると映画はロータリー無しでは出来なかったと思います。

チラシもようやく出来上がりました。映画のタイトルの「スカブロ」というのは耳慣れない言葉ですが、横須賀のbroと云う英語のスラングで仲間とか兄弟の意味です。“横渚の仲間たち”と云う意味で、映画に関わっていたみなさんが「スカブロ」ではないかと思っています。この言葉を流行らせられれば良いなと思っています。

映画制作で一番大変なことは、やはりお金が掛かるという事です。今回、なぜお金が集まったのかと云うと、やはり「映画」その物が持つ魅力が大きいのではと思います。かつて「映画青年」だったとか、そこまで行かなくても、忘れられない映画が人には必ず1, 2本有ります。映画に対しての夢とか憧れとかノスタルジックな感覚。そういうのが大きかった気がします。なので「映画を作る」というと「そんなモン作らなくていいよ」というネガティブな反応は無かった。逆に「映画出れるの?」と大概の人は聞いてきましたから。映画は、作って終わりではなく、これから作品に対して様々な物語が付いてくるのです。今回のテーマ「映画を巡る冒険」という形でお話しさせていただきます。

その一つ目は映画「スカブロ」がどのように作られたのか、二つ目は今後、どのような冒険の道を辿っていくのか、三つ目は「スカブロ」の先にある映画を巡る動き、これが僕の夢に近い事ですが此の三つの柱をテーマにお話しさせていただきます。そもそもドブ板を舞台にスカジャンを着た兄弟の話の思いついたのは20年前くらい前でした。その頃はやりたい企画が山ほどあり、具体的に脚本を書くまでは至ってませんでした。具体的に考え始めたのは、3年前に前作の「ばななとグローブとジンベエザメ」の上映会を横須賀で行った後です。その時は高校の同級生が中心になって実行委員会を立ち上げ、お陰で盛況の内に幕を閉じました。その成功体験が実行委員に火を点け、「横須賀で映画を作ろう」という気運になり、もし、出来るのなら横須賀で映画を作りたいと話が盛り上がり、映画作りに向けてスタートしました。だが、そう簡単には進まない訳で、最初は「トンネルフィルムズ」という、「非営利型社団法人」を立ち上げ、そこを拠点に協賛金を募りはじめました。しかし2年ほどで集まった資金が300万円弱で、殆ど資金集めは機能しませんでした。協賛以外の手法としては、出資と云う方法もあるのですが、出資法があり普通の会社ではなかなか難しいと言われ、僕は諦めていました。だが、ある方から「株式会社」を作って、その株を出資金代わりにしては、と言うアイデアが出され、ようやく動き始めました。最終的に映画を作ろうと動き始めてから出来上がるまでにおよそ2年半掛かりましたが、私はその間、映画が出来ないと1ミリも思いませんでした。出来るという確信がありました。当初書いた脚本は7, 8千万位かかる内容でした。それを5千万円というパジェットの中で納まる様に脚本を書き換えました。僕は単なる脚本家ではなく助監督も経験して現場でも色々やってきた経験があるのでそう言う事が出来るのです。映画で一番お金が掛かるのは人件費です。制作期間によって制作費は決まります。普通映画は2時間弱で、実は一日とれる分数と云うのは一日かけて5分撮ればこれは撮ったなという感じです。

今回の「スカブロ」も大体3週間で100分、1日5分くらいかかった計算です。最終的には約2年半も掛かってしまいました。僕の経験から言っても企画から映画が出来る確率では30本に1本ぐらいかなという感覚で、映画を作ることは簡単ではないんです。僕が横須賀に住んでいるとか、横須賀出身の窪塚兄弟が承諾してくれたとか、横須賀ロータリーの皆さんが熱く協力していただいたことなど、いろいろな要素が重なった結果、奇跡的に出来たものなのです。映画がオートマチックに出来ているように思われる方もいらっしゃいますが、一本の映画を完成するまでは紆余曲折、血と涙の結晶なんです。スカブロも一部のスタッフは、民家を借り合宿の様な生活をしながら、命を削りながら大変な思いをして、完成までこぎ着けることが出来



ました。



この映画が今後どのような冒険に挑むのかをお話しいたします。4月の中旬にやっと完成しましたが、昨年12月の頭に撮影終了ですから約4カ月間、編集やら効果、台詞、音楽、絵と音を合体させる作業などが終わり完成しました。4月の終わりに関係者など30人が初試写を見る機会が有り、参加した皆さんの評判は上々。おおよそ、好意的な感想で監督としては胸を撫で下ろしました。ある方からは、脚本より面白かったよとの言葉を戴きました。

映画の脚本は、私は単なる設計図の一つだと思っています。現場でライブで演じる役者さんや風景を大事にして、事前に決め付けることなく、良いものをよりベターな物をチョイスする撮影方法で挑んでいます。最近はその様な自分のスタイルを確立してきたのかな、と思っています。僕が従事してきた監督は結構、強権的なのか、監督が言う事が絶対だ、と云うような現場が多かった処ですから、監督になった当初はもう少し毅然と振る舞った方がいいのか、など思い悩む時期もありました。

そんな時、マチスと云う画家の展覧会で、そんなに緻密な作品には思えない作風なのですが、完成に辿り着くまで何十作もの習作を描いていたことを知りました。巨匠でも悩んで作品を完成させていくのだから、僕なんて悩んでも当たり前だと思うようになり、気が楽になりました。いよいよ今月18日(火)に完成試写会を横須賀 HUMAX シネマズで行います。一般の人に向けての初めての上映会で、所謂ワールドプレミアです。此の上映会の反応である程度「スカブロ」の今後の道が決まるものと思います。

その後、6月3日(土)から6週間、7月14日(金)までの上映が映画館との約束で決まっています。ただこれも、お客様の入りが芳しくなければ途中での打ち切りとなる場合もあります。逆に、良ければロングランになります。皆さんのご協力で何とか盛り上がっていきたいと思います。ただ僕らのできることは本当にここまでです、宣伝も資金の関係で大々的には出来るわけでは有りません。テレビ局が製作する大作は例えば10億円の予算があれば、5億円が制作費、5億円で宣伝費に使い20億円興収を上げます。僕らにはそのような方法は取れません。只、今回、当初は横須賀市限定の公開となります。つまり横須賀の皆さんに伝わり、横須賀の皆さんが劇場に足を運んで下さり、皆さんが見てくださいと声掛けしていただければその声が伝わって、最終的には、東京や全国に広げることが出来ます。例えば、SNSで3.5人に繋がると全世界の人に繋がる、と云われています。横須賀は42万人の都市ですから、ここにおられる皆さんが友達にお伝え頂ければアッと云う間に「スカブロ」の存在は広がると期待しています。

横須賀が主役となった映画は56年前の今村正平監督の「豚と軍艦」以来です。この「スカブロ」が出来たのは、ある種、色々なことが重なって奇跡的な事だと僕自身は思っています。奇跡的に出来たこの映画をどうするのか、これからは皆さんの協力を得て盛り上げていただくしかありません。

そうはいつでも、作品の力じゃないの。とか面白いかどうかだね。とか思っている方もいると思いますが、「出来の悪い子ども程可愛い」という言葉もあります。「スカブロ」は面白くない訳ではないです。先ほども言いましたが概ね好評でしたのでその辺は期待して貰って構わないと思います。ただ普通に映画会社を作って劇場でやっているような映画とは違う、横須賀の街が産み落とした「スカブロ」をみんなの子供のような思いを持っていただけるとありがたいと思います。「スカブロ」を財産として生かすも殺すも、横須賀の人達に掛かっているのかなと云う思いです。まさに此処におられる横須賀ロータリーの皆様に大きく掛かっているのかな、という思いです。

次は「スカブロ」の先にある映画を巡る冒険についてお話させていただきます。まだ始まってもないのに次を語っても、と云う所は有りますが・・・もし、盛り上がらずに終われば、横須賀が映画不毛地帯になってしまう。55年先まで映画を作ろうと云う人が表われないかもしれません。東京から別の撮影隊が来て横須賀のいいところだけ撮ってすぐまた帰っていく。それとも、盛り上がって次につながるのか。じゃあ、どれぐらい盛り上がればいいのか…具体的な数字を申し上げますと、横須賀在住で、島根県出身の錦織良成監督が、2002年に島根第1作となる「白い船」と云う映画を撮り、これが島根県の出雲、松江地区、人口規模

は横須賀市よりは少ない人口と思いますが、観客7万人を呼んだそうです。これはインデーズ系の映画としては記録的な数字だと思います。また、現実的な話で言うと太田隆文監督の浜松市発の映画「青い青い空」(2010年)と云う約5年程前の作品ですが、浜松地区で2万人の動員を呼んだ。ただ、2万人を入れても中央に名を轟かすことは出来ませんでした。僕は、横須賀ではその中間の4万人を「スカプロ」で動員できればかなりの盛り上がりと言えるのでは無いかと思ってます。ハードルは確かに高いですがなんとかその数字を目標に頑張っていきたいと思います。とにかく、盛り上がりずにここで終わってしまうのはあまりにも残念です。何とか次に繋がるものになればいいかなと思っています。実はここで私の夢を語りたかったんですが、時間がきてしまったようです。いずれにしても僕の先の夢に繋がるには、この「スカプロ」がどうなるのかにかかっています。映画によって横須賀と云う街が今後も活気ある街になるのか？しつこいようですが、横須賀のリーダーであるロータリーの皆さんの肩に掛かっているととてもいいと思います。今後ともご協力を宜しくお願い致します。

◆6月3日(土) 先行ロードショー 横須賀 HUMAX シネマズ

特別前売り券 1,500円発売中

出演：窪塚俊介 RUEED AISHA 福永マリカ 武史 小泉孝太郎 根岸季衣
黒田福美 中原丈雄 川上麻衣子 他

○原案・脚本・監督 矢城潤一 横須賀市在住

<閉会・点鐘> 13:30 谷 会長

週報担当 松村和雄